

MACHInnovation

コンセプトブック



想いをかたちに 未来へつなぐ

 **TAKENAKA**



多様な主体で考え
取り組むことで
まちは、社会は、変わる

私たちが目指すまちづくりは「ともに築くまち」です。
みんなで未来仮説を描き、まちに必要な機能を
実験・実装していくことでよりよいまちに変わっていきます。
私たち、竹中工務店「まちづくり戦略室」は、
市民・企業・行政・産業など、多様な主体が立場を越えて
連携することが、社会変革にはもっとも重要と考えています。



まちづくり戦略室

- ✓ まちの価値向上に寄与する技術提案
- ✓ 地域連携協定に伴うまちの価値向上
- ✓ キープロジェクトの創出と育成
- ✓ まちの関係者の共感と機運の醸成
- ✓ まちの価値向上に資するエリアマネジメント

- ✓ まちの調査研究・情報発信・提言・連携と協働
- ✓ まちの診断（現況調査・構造分析・課題抽出）
- ✓ まちの提案（コンセプト・戦略立案・成長シナリオ作成）
- ✓ ステークホルダーとの連携
- ✓ コンソーシアムの形成

日本各地での主なまちづくり活動

■ 北海道厚真町 「厚真町にぎわい会議」(P28)



■ 長野県塩尻市 地域連携協定(P23-24)



■ 島根県雲南市 ソーシャルチャレンジバレー 地域連携協定(P21-22)



■ 東京都、埼玉県、大阪府、香川県、など 海床ロボット 実証実験 (P11)



■ 埼玉県小川町 地域連携協定 (P19-20)



■ 東京都江東区 イーストベイプロジェクト (P7-12)



■ 東京都国分寺市 地域活性化包括連携協定

■ 大阪府茨木市 人を中心のまちなかづくり



■ 大阪府大阪市 御堂筋のエリアマネジメント(P13-16)

index

- 05 わたしたちが考えるまちの未来仮説像「まち」の4分類
- 07 イーストベイプロジェクト 東京都江東区
- 08 運河ルネサンス協議会
- 09 水辺の大実験
- 10 グリーンインフラ
- 11 海床ロボット
- 12 シティヴィンヤード
- 13 御堂筋のパークストリート 大阪府大阪市
- 14 いちょうテラス淀屋橋、御堂筋・賑わいを生む空間再編プロジェクト
- 15 道路での高質なグリーンマネジメント、御堂筋・はなプロジェクト
- 16 ミナミ・まちなかミュージック活動、行政や商店街と連携した違法駐輪対策、AIを活用した風景分析
- 17 箕面船場の将来ビジョン 大阪府箕面市
- 18 茨木市のまちなか戦略 大阪府茨木市
- 19 連携協定 埼玉県小川町
- 20 コワーキングロビー NESTo
- 21 連携協定 島根県雲南市
- 22 企業チャレンジ
- 23 連携協定 長野県塩尻市
- 24 BYAKU Narai、キノマチ会議リアル版、塩尻ワインテラス
- 25 竹中工務店のまちづくり まちづくりする理由
- 26 サステナブル社会の実現
- 27 未来仮説実証 まちづくり手法
- 28 社会実験アーカイブ

1. 大都市タイプ

“まちのシェアリングやリノベーション” 新たな共創都市を創る

- 災害時の脆弱性
- 環境の質の低下
- 人口集中過多
- ヒートアイランド
- 陳腐化した公共空間
- 車両交通優先の都市交通

課題

ソリューションキーワード

- ・エリアマネジメント
 - ・シェアリング
 - ・水辺活用
 - ・水上モビリティ
 - ・公共交通空間活用
 - ・まちの未利用地活用
 - ・Park-PFI
 - ・キノマチ
 - ・ウォーカブル
 - ・リノベーション



2. 郊外タイプ

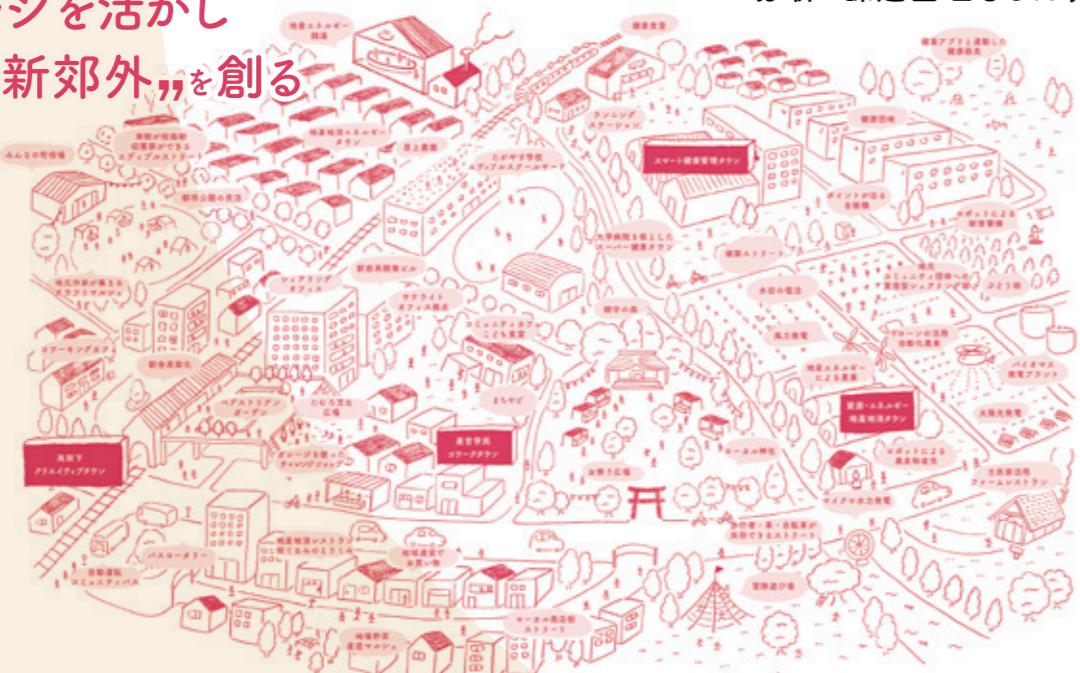
“まちと自然のエッジを活かし
クリエイティブな新郊外”を創る

- ・インフラ老朽化
- ・まちなかの空洞化
- ・空き家増加
- ・農地や緑地の放棄
- ・高齢化と人口減少
- ・コミュニケーション希薄化

課題

ソリューションキーワード

- ・空き家、廃校、公園、緑地の活用
 - ・サテライト、コワーキングオフィス
 - ・まちやど
 - ・ウェルネス
 - ・ウォーカブル
 - ・ローカルモビリティ
 - ・グリーンインフラ
 - ・ローカルマーケット



立地や特徴から「まち」を
分析・課題整理をしたうえで

一つのタイプに分類して、
未来仮説像を描きました。

3. 地方中核都市タイプ

“歴史やシンボルを活かした
シビックプライドを醸成する
まちの仕組み”を創る

歴史・文化資源の承継問題
地域経済の衰退
ビルや商店街の空きテナント
車社会への依存

課題

リューションキーワード

- ・マルシェ開催
 - ・公共空間の利活用
 - ・コンパクトシティ



4. 地方タイプ

“山から都市に 人・物・経済を循環させて 森林グランドサイクル[®]”を創る

自然災害の増加
インフラ老朽化
人口減少・高齢化
医療や教育環境低下

課題

ソリューションキーワード

- ・森林グランドサイクル
 - ・自然エネルギー活用
 - ・川の上下流連携
 - ・木材のカスケード利用
 - ・古民家再生
 - ・サーチュラーエコノミー
 - ・DIY まちづくり
 - ・ロボット、ドローン活用
 - ・オンラインマッチング（乗合バス）



大都市 東京・江東区

イーストベイプロジェクト



現代社会に輝く“水辺のまちづくり”で新たな価値を創出

東京都江東区は、23区の東側で東京湾に面し、隅田川や荒川に挟まれて多くの水路が張り巡られた水の都です。この水辺は舟運で栄えた江戸・深川の文化をはじめ、エリアの資源として暮らしを支えてきました。そして現代、過密都市となった江東区の暮らしを輝かせるために、私たちは、多彩なまちの人たちと密にコミュニケーションを取り、関係性を丁寧に紡ぐことで水辺活性化をまちのプロジェクトとして共創していきます。

目的

水域の活性化により
陸域の価値向上を図る

エリア

深川地区・砂町地区・新砂地区
潮見枝川地区・豊洲地区・有明東雲地区
辰巳地区・新木場地区 など

大都市 × エリマネ × 水辺利用

歩いたら健康になる 「運河ルネサンス協議会」

課題

ストレス社会・運動不足
水辺の防災

「運河ルネサンス」は、東京の水辺の魅力の向上や観光振興など、水域利用とその周辺のまちづくりが一体となり、地元が主体で行う東京都の取り組みです。推進地区は、水域占用の規制緩和や水上施設の設置ができ、地域主体のイベント運営が可能に。東陽・新砂地区は、2020年秋に推進地区指定を受け、地元の町会を中心に地元企業、江東区民などと連携して活動しています。

取り組み

大都会 × 健康寿命



「フィットネスロード 汐浜運河」

江東区には約30kmもの水辺がありますが親水場所は多くありません。そこで水辺沿いの緑道に歩いただけで健康になるコンテンツを設置。身長に応じた歩幅を道路に示したり、歩き方センサーで分析しアドバイスするなど区民が水辺を歩く機会をつくりました。



「コンテナカフェ・汐浜テラス」

協議会と周辺企業、江東区と協同で汐浜運河沿いの整備を進め、水辺にウッドデッキテラスをオープン。コンテナカフェを併設し、オープンエアの水面を眺めて憩う空間として地域住民の集い場や働く人のリフレッシュの場となっています。



「浮桟橋」

汐浜運河に掛かる浮桟橋を2023年にリニューアル。一般公開して、誰でも水上アクティビティを楽しむことが可能になりました。定期的にSUP教室が行われたり、海床ロボットの実証実験や夏の時期には水上で花火大会を楽しむための船が発着するようにします。

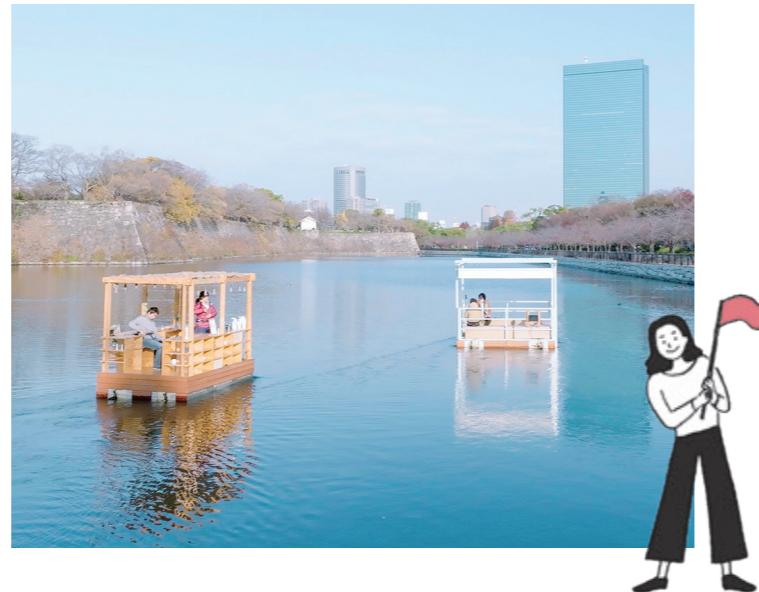


大都市 × AI・ロボット 実証実験

水上の新しいモビリティ 「海床ロボット」

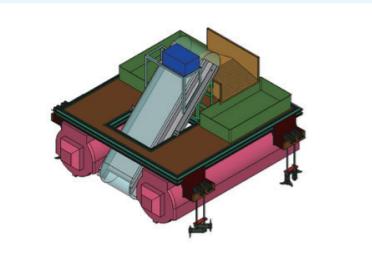
課題 水辺周辺の低利用土地・アクセス性・環境改善・水害リスク

近年、大都市臨海部は都市過密化により交通、物流、環境、防災などの課題が山積しています。「海床ロボット」は海床ロボットコンソーシアムが開発した、3m×3mの都市型自動運転船。ドローンのように四方に動ける制御システムで水辺活用が可能。実用化に向け、大阪城東外堀（2025年大阪万博の未来実証技術に選出）や越谷レイクタウンなどで実証実験中です。



取り組み /

大都市 × 環境改善



「東京ベイeSGプロジェクト」

東京都中央防波堤エリアで行なっている海ごみ清掃ロボットと高機能桟橋の実証実験^{*1}。無人の自動運転船が水面に浮かぶペットボトルなどのプラスチックごみを回収。桟橋の屋根面で発電した電力（太陽光）を着桟時に充電する仕組みで社会実装を目指します。

地方地域 × モビリティ



「海の次世代モビリティ」

香川県三豊市粟島で行なったアート＆レストラン船の実証実験^{*2}。「瀬戸内国際芸術祭」の開催にあわせてアート作品を展示したり、地元ホテルと連携してレストラン船として遊覧。自動運転船による離島の人手不足の解決と新しい観光サービス創出を検証しました。

郊外 × モビリティ × 環境改善



「大相模調節池周辺」

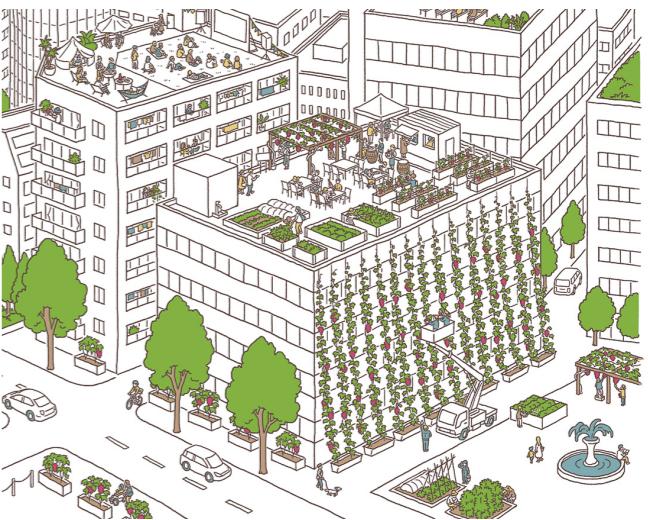
埼玉県越谷市のレイクタウン大相模調節池周辺で、水上を乗船移動するものと、カフェ仕様にアレンジしたものと、2種類の都市型自動運転船を出展しました。大相模調節池のような都市の使われていない静水面にぎわい創出と水質改善などの課題解決を目指します。

大都市 × グリーンインフラ

ビルの屋上を緑化しながらワインを醸造する 「シティヴィンヤード」

課題 都市部の緑化・未利用地・フードマイレージ・エリア価値

「東京のビルの屋上を緑化しながら、環境にも優しいローカルワインをつくることはできないだろうか」。シティヴィンヤードプロジェクトはそんな仮説を実証するためにはじまったエコロジーなプロジェクト。竹中工務店とワイン醸造を担当する「深川ワイナリー」、米国ブルックリンの栽培ノウハウを提供する「ROOFTOP REDS」の3社が連携して2020年から実証実験を行っています。



取り組み /

大都市 × 地域価値化 × エディブル



「CITY VINEYARD FUKAGAWA」

2019年から江東区深川のスーパーの屋上に木材を活用したウッドデッキとバーゴラを設置し、居場所をつくると共にワイン用ブドウ栽培を行っています。収穫量は年々増加し、地域住民や関係者での収穫や屋上で収穫したブドウだけで醸造したワインの試飲会などを行っています。緑化の附加価値としてブドウの栽培や収穫などを楽しみながら飲食もできる場の創出をしました。



「CITY VINEYARD OTEMACHI」

2022年から大手町のオフィスビル屋上で実証実験を開始。建物の全面リノベーションに伴い、ワーカーやテナント事業者の交流の場にするため、未利用だった屋上をシティヴィンヤードによるブドウ栽培の場にリノベーションしました。収穫したブドウは連携しているアーバンワイナリーによって大手町産のワインをつくることでエリアや建物のブランディングに寄与しています。

大都市 大阪・中央区、浪速区

御堂筋のパークストリート

目的 地権者・関係者等と協働し
沿道空間の価値向上を図る

エリア 淀屋橋駅、本町駅、心斎橋駅、
難波駅の周辺など御堂筋沿道

御堂筋の「パークストリート化」を目指す

大阪のメインストリートである御堂筋は、オフィス、ホテル、商業施設が並ぶ大阪有数のビジネス街や繁華街である一方、エリア間競争の中で一部のビルの空室率増加など不動産価値の下落が課題でした。その解決を目指し、沿道企業を中心となりウォーカブルなまちづくりと「パークストリート」を掲げるエリアマネジメント組織が複数立ち上がり、まちづくり戦略室では主要3団体で部会活動などの支援を行っています。



大都市 × エリマネ × ほこみち × グリーンインフラ



一般社団法人
御堂筋まちづくりネットワーク



NPO 法人
御堂筋・長堀 21世紀の会



ミナミ
まち育てネットワーク

大阪のビジネス地区である淀屋橋、本町の御堂筋沿道地権者など約50社で構成されています。まちづくり戦略室は、法人事務局として関わり、御堂筋の歩行者空間化やにぎわい・プロモーション活動、美化・緑化活動、行政などへの提言活動を推進しています。

大都市 × ウォーカブル

沿道建物の壁面後退空間と歩道の一体的な活用の仕掛け 「いちょうテラス淀屋橋」

課題 道路の利活用・憩いの空間不足・賑わい演出不足



御堂筋の側道の一部を歩行者空間化するパークレット「いちょうテラス淀屋橋」がオープン。大阪府産杉材を使用したデッキやテーブル、地域情報を発信するデジタルサイネージなどを備え、周辺ワーカーの憩いの場となっています。イベント時には沿道建物の壁面後退空間にキッチンカーなどを設置し、パークレットを介して道路と民地が一体となったにぎわいが生まれています。当会が提言した「御堂筋の広場化」の実現に向け、2017年の社会実験を経て、2022年に民設民営で供用開始しました。2024年春には2基目の「いちょうテラス高麗橋」がオープン予定です。



公共空間にベンチやステージが出現

大都市 × ウォーカブル

沿道商業施設が地先を利用する 「御堂筋・賑わいを生む空間再編プロジェクト」

課題 道路の維持管理・
憩いの空間不足・賑わい演出不足



御堂筋の新橋交差点以南の区間で、人に優しく歩きやすい空間を目指した緩速車線の歩道化工事が2025年に完成予定です。まちづくり戦略室はこの道路空間の再編を受けて様々な社会実験に取り組んでおり、2022年はキッチンカーなどによる賑わい演出を、2023年は沿道商業からの賑わいの展開に取り組みました。社会実験をする中で、違法駐輪などへの対応やイベント開催のための資金確保などの課題も見え、持続性の確保についてもトライ＆エラーを繰り返しながら理想的なまちづくりを目指して活動を継続していきます。



キッチンカーがあることで足を止める人が増え、賑わいを創出

大都市 × グリーンインフラ

四季折々の自然を都心に育む 「道路での高質なグリーンマネジメント」

課題 道路空間のみどりの整備・
維持管理・憩いの空間づくり

御堂筋には様々な緑化空間があります。「御堂筋まちづくりネットワーク」では、①沿道企業から寄付された彫刻を彩る御堂筋コンテナガーデン（全50基）、②交差点角の平野町街園・本町街園（全8カ所）、③パークレット内の植栽プランター、④中央分離帯の御堂筋アメニティフラワーPODについて、日常的な水やりなどの維持管理や季節ごとの植足しを沿道企業が連携して行っています。街園では一年を通してどの季節でも楽しめる宿根草を中心とした先駆的なデザインを施し、道路空間の高質なグリーンマネジメントを行っています。



会員企業メンバーが日々のお手入れを実施する 「御堂筋・はなプロジェクト」

課題 道路空間での
植栽維持管理の継続

新橋交差点の北西角の公共花壇を「御堂筋・はなプロジェクト」と称し、女性会員メンバーを中心に継続的な維持管理をしています。季節の植え替え、日々の維持管理、イベントの実施など、メンバーが楽しみながら取り組めるよう進めています。2023年には「心斎橋グリーンプロジェクト」がスタート。店舗から発生したコンポストを活用し、地元のメンバーを中心に花苗を育てる花壇の運営にトライします。このプロジェクトを通じ、御堂筋の魅力的な緑化環境の実現、魅力の向上、参加者から生まれる地域コミュニティの醸成に期待しています。



大都市 × エリマネ

中心市街地の回遊性を高める 「ミナミ・まちなかミュージック活動」

課題 回遊性向上・道路活用・空地活用・
まちの使い手育成・文化醸成

大阪・ミナミでは、御堂筋等の南北方向の通行量が多いものの、東西方向やひと筋内側に入った商店街への回遊性が課題です。そこで、地元商店街と協力してまちなかの道路や空地を活用し、若手音楽家が安心してライブできる場を提供しています。



繁華街特有の課題解決に参画 「行政や商店街と連携した違法駐輪対策」

課題 行政や商店街と連携した
放置自転車対策

ミナミでは、集中する放置自転車が歩行者・緊急車両の妨げとなっていますが、商店街単位では解決しづらいことが課題でした。そこで行政や商店街と連携し、商店街の枠を超えて放置自転車の調査・分析、啓発活動、撤去活動の3つの対策を進めています。



大都市 × AI活用

繁華街の景観を探り、まちづくり施策に展開する 「AIを活用した風景分析」

課題 景観改善・にぎわい創出・特色づくり・課題抽出・
サインルール・空き店舗対策

ミナミでは、立ち並ぶ店舗が織りなすサインがまちの特色となっています。そこで当社が独自開発を推進している「エモーショナルスケープ™」を使い、AI分析と地元の人の感覚を重ね合わせ、まちの雰囲気を活かした景観づくりを進めています。



郊外 × 将来構想 大阪府・箕面市

箕面船場の将来ビジョン

目的

更新期を迎えた産業団地・景観と緑化の陳腐化・個別売却とマンションバラ立ち・新駅ポテンシャルとの整合性



「まちの将来像の共有」

産業団地としてのまちの性格と新たな郊外駅のまちとしての性格をどのように調和していくのかが議論されました。その結果、現在の事業の継承や発展を目指しつつ、移転、売却、建替えの場合でもマンションやオフィスなどの用途導入の可能性を担保しながらまち全体としてゆるやかに更新していく将来像を共有しました。

「新たなストリートづくり」

域内交通はこれまで業務・物流車両が中心でしたが、新駅開業や都市機能の導入により、交通ネットワークや景観面でも魅力あるまちへとシフトしていくことが期待されます。そこで組合が掲げる「COMガーデンシティ」構想の具現化のシンボルとしてメインストリートの歩道拡幅など、ウォーカブル化や街路樹整備などの検討も進めています。

「ガイドラインによる魅力誘導」

今後、土地の売却や建替えなどによって環境面での変化が予想されます。まちの機能更新を通じて、箕面船場エリアの魅力形成を促進するため、条件を満たせば高さ制限の緩和を認めつつ、ガイドラインやエリアマネジメントを活用することで低層部の魅力創出や隔地駐車場の活用を図り、歩いて楽しいまちへの誘導を目指します。

郊外 × まちなか再生 大阪府・茨木市

目的

茨木市のまちなか戦略

新しい公共施設を起点にはじめる

大阪府のベッドタウンの一つである茨木市では高度成長期に整備されたさまざまなストックの更新時期に来ています。またまちなかでは交通渋滞や自転車の適切な利用促進が課題です。その中で2023年に子育てなど既存公共施設を集約した当社設計の複合施設「おにくる」が完成しました。この施設への関わりをきっかけに周辺のまちづくりに取り組んでいます。



2023年完成の茨木市の新公共複合施設「おにくる」設計：伊東豊雄建築設計事務所・竹中工務店 JV

取り組み /

郊外 × ウォーカブル



郊外 × ライフスタイル



郊外 × PR



「ストリートデザイン社会実験」

おにくるのプロポーザル時に付加価値提案として行った周辺のストリートデザイン計画を契機に、茨木市役所とおにくるの間の道路を廃道し、歩行者に開放することになりました。受託した市役所前線基本計等策定業務では二度の社会実験を通じて、人流測定やアクティビティ調査などにより、人の流れと滞留の実態を踏まえたデザイン検討を設計者と協力して実施しました。

「10の茨木まちなかスタイル」

茨木市のまちなかで各種政策を束ねる「人を中心のまちなか戦略」の検討業務を受託しました。その中で市民がまちなかで大切にしたいことや実現したいことについて過去の市民アンケートから抽出して「10のまちなかスタイル」としてまとめました。今後のまちなかづくりの各場面のテーマとして活用していく予定です。

「コンセプトブックの発行」

「10のまちなかスタイル」を広く知らせるためにコンセプトブックを作成しました。市民の現在のまちなかへの関わり度合いに応じて10通りのまちなかスタイルを絵本のように読み進めることができます。茨木市が推めるまちなか戦略の意図するところを理解しつつ、市民ひとりひとりがにかをはじめとなる冊子となるように編集しました。

郊外 埼玉県・比企郡小川町

目的

都心部との交流を増やし
関係人口を増やす

小川町・連携協定

木材文化と歴史が息づくまちで
100年後も続く未来をつくる

都心から約1時間のところにある埼玉県比企郡小川町。かつては江戸に木材を搬出していた材木の産地であり、自然豊かな里山や有機栽培による食文化が暮らしのそばにあります。今でも多く残る歴史的建物や地域資源を活かすべく2019年11月に小川町、NPO法人あかりえ、竹中工務店の3者が地域連携協定を結びました。



連携協定調印式（リリックおがわにて）

郊外 × 歴史的建物活用 × 働き方改革

築100年の石蔵を新しい働き方の場へ
「コワーキングロビーNESTo」

課題

歴史的建物活用・地域活性・
地域木材の活用・新しい働き方

関東最大級の大谷石の石蔵をリノベーションした「コワーキングロビーNESTo」。築100年の石蔵は地域の織物会社が所有し、まちの人々に大切に使られてきました。地域活動の拠点としても利用されてきた石蔵がこれからの100年も使い続けられるよう、2020年から広まったリモートワークなどの「新しい働き方」が実現できる「コワーキングロビーNESTo」として生まれ変わりました。

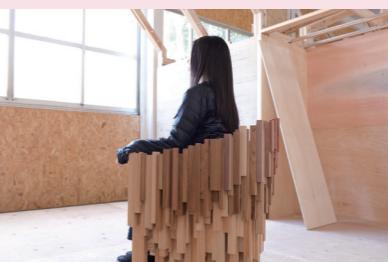


＼森林グランドサイクルでまちを豊かに／

郊外 × キノマチ



郊外 × サーキュラーエコノミー



郊外 × コミュニケーション



「森を起点にナリワイづくり」

森の中でやりたいことや木を使ってつくりたいもの、叶えたい暮らしなどを考えるワークショップを開催。木材文化が根付く小川町の森林と関わることで生まれる思いやアイディアを創出し、個人の森のナリワイによる「森とまちの未来」を考える機会を提供します。

「アップサイクルファニチャー」

循環型のものづくりを実施。地域の木工会社と連携し、木工業の課題である廃棄材を活用したアップサイクルファニチャーを制作。解体や廃棄時に課題となる接着剤を自然素材とすることで廃棄後には自然に還る椅子を作成しました。

「企業のサステナブル研修」

地域資源をめぐる多企業研修を実施。地域の資源や課題とともに体験することで、各企業の抱えている課題や新しい事業の在り方など、新たな気づきがみえてきます。ひとつの地域に企業や個人が連携することで個人だけでは実現できない新しい価値を創ります。

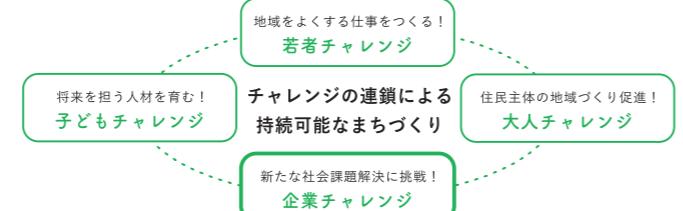
地方地域 島根・雲南市

雲南市・連携協定



チャレンジの連鎖によって、持続可能な社会を目指す

少子高齢化、過疎化が進む島根県雲南市はまちづくりにおいて「課題先進地」とも呼べます。「小規模・多機能自治」を掲げ、「コミュニティナース」を皮切りに、「雲南ソーシャルチャレンジバレー」=子ども、若者、大人、企業の立ち位置で課題を解決し、挑戦の連鎖が地域の生態系になっていく取り組みです。私たちは官民の新しい連携を通じて社会課題を解決していく「企業チャレンジ」に関わります。



目的 チャレンジャーが育ちあう
生態系を育む

地方地域 × エリマネ 実証実験

地域と企業が協働して社会実装する
「企業チャレンジ」

課題

過疎化・少子高齢化・地域活性
雇用創出・遊休不動産・空き家・地域魅力化

「企業チャレンジ」とは、地域内外の民間企業が雲南市を舞台に地域と協働しながら社会課題解決や新たな価値創造のため、様々なチャレンジを行い、「5方良し」な社会実装まで目指す試み。竹中工務店は雲南市と連携協定を結び、当社社員を雲南市政策企画部へ派遣して、企業連携の窓口や、実証実験対応の運営など、企業チャレンジの土台となるプラットフォームづくりを行なっています。

企業チャレンジ推進連絡会

マネジメントチーム

雲南市

メンバー
雲南市、中間支援組織、地域自主組織連絡協
雲南市商工会、金融機関、民間企業

対応項目

- ・企業チャレンジの制度構築
- ・企業チャレンジの窓口
- ・事務局機能
- ・地域と企業等との連携コーディネート

チャレンジチーム

竹中工務店
地元企業・スタートアップ

チャレンジチーム

ヤマハ発動機
地元企業・スタートアップ

チャレンジチーム

ヒトカラメディア
地元企業・スタートアップ

雲南市が目指す「5方よし」とは

- ①市民よし
- ②雲南市よし
- ③参画企業よし
- ④未来の参画企業よし
- ⑤日本と世界の他地域よし

企業チャレンジ /

地方地域 × 健康寿命



「健築®プロジェクト」
チャレンジチーム 竹中工務店

「健築®プロジェクト」で蓄積してきたノウハウを活用し、地域自治組織でソーシャルにかかる情報の一元化。データを通じて、健康向上を目指します。例えば「笑顔」の定量化は健康サロンでの笑顔指數の評価など、情報だけでとどまらない方法で高齢化社会を見守ります。

地方地域 × AI・ロボット



「低速モビリティ活用」
チャレンジチーム ヤマハ発動機

低速モビリティは、360度視野で開放的な構造で最高時速20km未満で走行する車両。雲南市木次町の市街地でヤマハ発動機の低速車両の実証運行を実施。高齢者の移動手段の模索、運転時の笑顔を計測・分断をして健康状態も検証した。

地方地域 × 働き方改革



「サテライトオフィス構想」

チャレンジチーム ヒトカラメディア

雲南市三新塔地区内の眠っていた空き家を活用したプロジェクト。地元住民と空き家の課題を解決するワークショップなどで対話を重ね、「オトナリ」というコミュニティスペースをつくり、シェアオフィス・チャレンジキッチンとして遊休施設を蘇らせました。

※「健築®」とは：人から始まり、人と寄り添う建築・まちづくりを通じて、一人ひとりが持っている可能性を最大限発揮し、誰もが幸せ（Well-being）を感じ、これを高めていく社会を目指す活動です。

地方地域

長野・塩尻市

塩尻市・連携協定



森林グランドサイクルの創出による 地域課題の解決へ

長野県塩尻市と持続可能な社会づくりや地域課題の解決に寄与・貢献することを目的とした連携協定を2020年1月に締結。地域資源である森林資源を活用した「森林グランドサイクル」の循環を促し、塩尻市の森林公社と竹中工務店で「株式会社ソルトターミナル」を立ち上げ、公民連携によるまちづくりを推進しています。



左から塩尻市長小口利幸氏、竹中工務店社長 佐々木正人。

目的

森林資源を活用した
地域活性化から
関係人口を増やす

エリア

木曽地域・奈良井宿

地方地域

× 空き家活用

× 新エネルギー

風情ある宿場町でまちやどプロジェクト 「BYAKU Narai」

課題

空き家活用・地域活性・地域木材の活用
雇用創出・地域魅力化・まちの担い手不足

江戸時代から続く中山道の宿場町「奈良井宿」で約200年前の伝統建築物を改修。約400年前より賑わった町並みがほぼ完全に保存されている貴重なまちを「やど」に見立てた「現代の宿場」のまちづくりには様々なステークホルダーによる協業が不可欠。各方面のプロフェッショナルとつながり、地域との結びつきを大切にまちが持つストーリー性を伝え、地域の文脈を生かしたまちづくりをしています。



「杉の森酒造」を改修し、複合施設に。



ラグジュアリーな宿泊施設はインバウンド需要をもたらした。



地元木材チップによる ウッドボイラ



「BYAKU Narai」の
大浴場
地元森林組合と連携し、
ウッドチップを燃やして
寒い木曽谷でお風呂を
わかれます。

地方地域 × キノマチ



「キノマチ会議リアル版」

林業や製材の現場を訪れて可能性を議論する「キノマチ会議リアル版」を塩尻市で開催。テーマは「国産材利用の最前線を学び、さらなる活用に知恵を絞る」。建築、林業、デザイン、メディア、まちづくりなど様々な分野の人が塩尻に集まり、アイデアを創出しました。

地方地域 × 地域価値向上



「塩尻ワインテラス」

「塩尻ワインを日常に」を合言葉に、JR塩尻駅前の活性化を目指して、2022年秋から定期的に開催している屋外イベント。駅前にある公共空間の実証実験で市民の居場所づくりを目的としている。人工知能(AI)が好みに合った次の1杯を提案する面白い試みも行いました。

竹中工務店がまちづくりをする理由

サステナブル社会の実現

竹中グループは一丸となって
まちづくり総合
エンジニアリング企業
になります。

最良の作品と
建築ソリューションを



設計施工
設計・エンジニアリング
PM/CM



環境と共生する
強い社会基盤を



私たち竹中グループは「まちづくり総合エンジニアリング企業」を目指して、
移り変わる時代のニーズと社会課題に対し、
当社の技術を結集して、まちに新しい価値を創造する提案をしていきます。

目指すサステナブルなまち



豊かで多様な暮らしと産業を強く支えるインフラ基盤

最先端の情報インフラ・セキュリティ完備、防災も万全
暮らしと産業発展を支える交通・物流が発展
高効率な再生エネによるスマートコミュニティ

伝統と特色を活かし、それぞれに存在感のある都市・地域

地域発の産業・文化の発展が日本の競争力の源泉に
田舎の自然資本と生活基盤を確保
独創的な文化の発信都市

多様で健康な暮らし方・働き方・学び方ができる場

ダイバーシティを許容、多様な人々が交流
高度教育・オープンイノベーションの国際拠点
明るい未来の子育て・教育が充実
健康・福祉・医療サービスで安心な暮らし

夢と未知への挑戦で切り拓く未来

様々な分野が協業し、先端技術で未来を創造

強み活かします



竹中工務店の社内技術を活かして
まちや社会の課題に挑みます。

竹中のまちづくり総合エンジニアリング

サステナブル社会現実のためのビジネスモデル／ソリューション

まちづくり戦略

×

竹中の技術キーワード

まちの基盤のデザイン

エリアマネジメント グリーンインフラ 生物多様性
モビリティ 防災 地域価値向上 事業承継

経済・文化のデザイン

文化資源 サーキュラーエコノミー 歴史的建物活用
空き家活用 サステナ建築

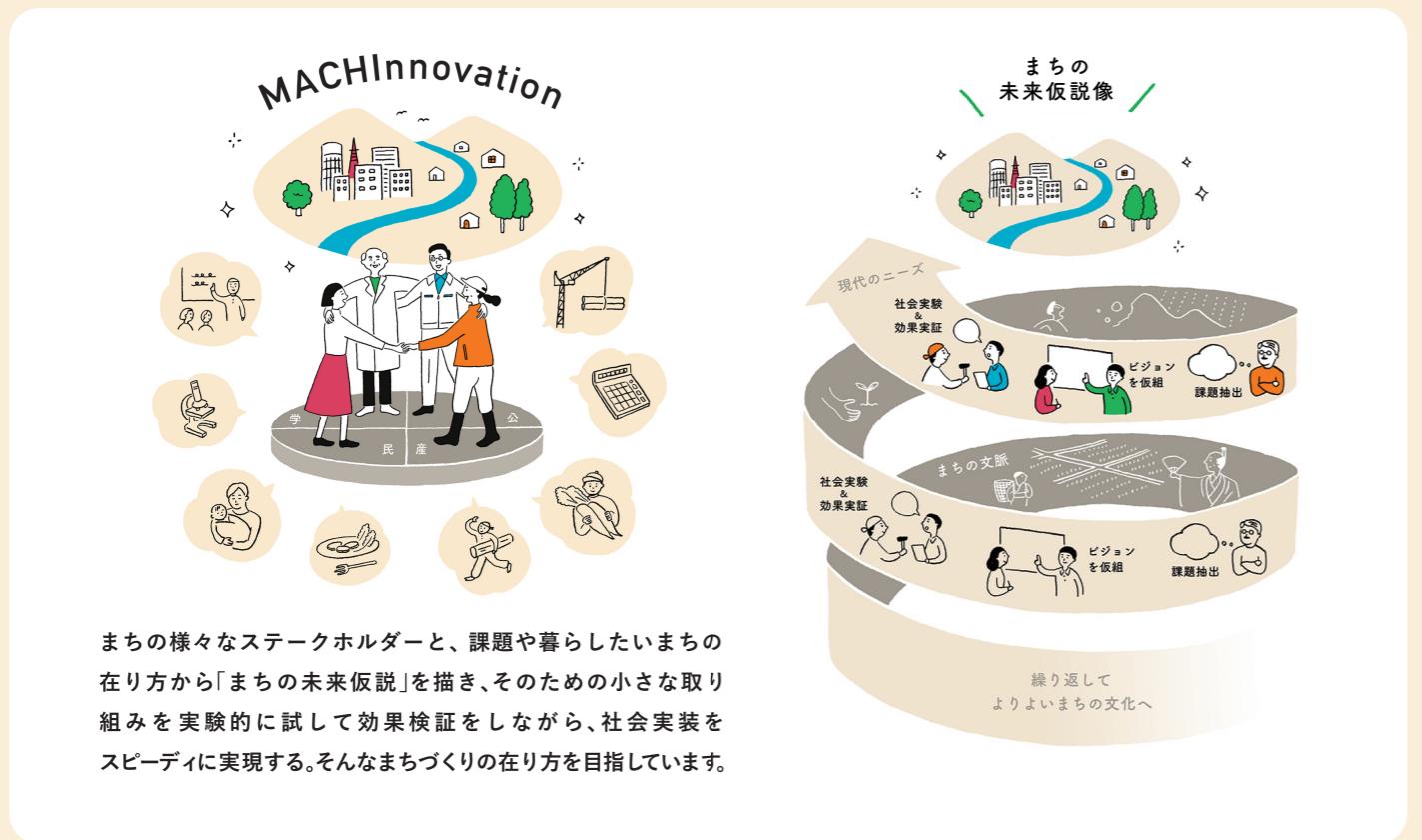
生活 (QOL) のデザイン

健康寿命 働き方改革 コミュニケーション 水辺活用
ウォーカブル 少子高齢化 環境改善 エディブル ライフスタイル

未来のデザイン

AI・ロボット キノマチ 新エネルギー アート

未来仮説実証 まちづくり手法



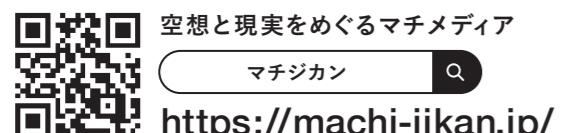
まちづくり戦略室の社会実験アーカイブ



私たちと一緒にまちづくりしませんか？

竹中工務店の「まちづくり戦略室」は、
日本のさまざまな場所でまちづくりのお手伝いをしています。

様々なステークホルダーとつながり、
できることを持ち寄って、未来のまちをつくりたい。



お問い合わせ先
株式会社竹中工務店 まちづくり戦略室
東京都江東区新砂 1-1-1 ☎ 03-6810-5000



発行月 企画・発行
2024年5月 株式会社竹中工務店 まちづくり戦略室

編集・執筆
ココホレジャパン株式会社

デザイン・イラスト
SANSAI.inc / ハギワラスミレ



想いをかたちに 未来へつなぐ

 **TAKENAKA**